

CITATION: Marigold R, Gunther A, Tiwari D, Kwan J. Antiepileptic drugs for the primary and secondary prevention of seizures after subarachnoid haemorrhage *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 6. Art. No.: CD008710. DOI: 10.1002/14651858.CD008710.pub2.
CRG名: Epilepsy Group .

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 12 March 2013
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 6; Update

アブストラクト

背景: くも膜下出血は、急性期および長期のいずれにおいても、けいれん発作を発症する可能性がある。くも膜下出血後に、けいれん発作の一次予防および二次予防を目的として、抗てんかん薬(AEDs)を使用することの是非は、はっきりしておらず、治療法についての現時点での一致した意見はない。

目的: くも膜下出血後のけいれん発作に対する一次予防および二次予防における抗てんかん薬の効果を評価すること

検索戦略: Cochrane Epilepsy Group Specialised Register、コクラン・ライブラリのCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(2013年第1号)およびMEDLINE(1946年~2013年3月12日)を検索した。これらの検索から得られた論文の参考文献リストを調べた。

選択基準: 患者が、治療群(1種以上のAEDs)もしくはプラセボ群に割り付けられたランダム化および準ランダム化比較試験を全て選択した。

データ収集と分析: 2名のレビュー担当著者(RMおよびJK)が、独立にこれらの試験の方法論的な質を審査、評価した。組み込まれた試験については、著者の1名がデータを抽出し、別の著者がそれを検証した。

主な結果: 関連性のある試験は見出されなかった。

レビューアの結論: くも膜下出血に関連するけいれん発作の一次予防もしくは二次予防を目的とした抗てんかん薬の使用について、それを支持するエビデンスも異義を唱えるエビデンスも認められなかった。臨床診療に指針を示すには、適切にデザインされたランダム化比較試験が至急に必要である。

平易な要約(Plain language summary)

くも膜下出血後のけいれん発作の一予防および二次予防を目的とした抗てんかん薬投与

本レビューの目的は、くも膜下出血後のてんかん発作の予防として、抗てんかん薬をルーチンに使用する事が妥当であるかどうかを調べることでした。一度も発作を起こしていない患者(一次予防)と、すでに発作を起こしている患者(二次予防)の両者を対象として調べました。

てんかん発作は、脳内の神経細胞の異常な周期的放電により引き起こされ、体の動きまたは機能、感覚、意識、もしくは行動の意識的でない変化を引き起こします。くも膜下出血に引き続き、25%におよぶ患者でけいれん発

Copyright(c) All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care
作が発症します。そして、そのけいれん発作は、血液そのものによる神経細胞の損傷、痙攣組織の形成、出血部位周辺の浮腫がきっかけとなります。制御困難な再発のけいれん発作は、高い死亡率、神経学的回復の障害、生活の質の低下の原因となります。一方、抗てんかん薬の副作用には下痢、悪心・嘔吐、傾眠、めまい、激越、振戦、錯乱および皮膚発疹などがあります。抗けいれん薬を処方する際には、薬剤そのものが神経学的な回復ならびにリハビリテーションを妨げる可能性を検討する必要があります。

くも膜下出血後に、抗てんかん薬とプラセボとを比較したランダム化比較試験は現在まで実施されていません。レビューで説明しましたように、いくつかの後ろ向き試験で、抗てんかん薬を高用量もしくは長期間投与された患者で、予後が悪いことが示唆されていますが、ルーチンでの使用を推奨するほど強力なエビデンスではありません。

現在、くも膜下出血後のけいれん発作の一次予防および二次予防を目的とした、抗てんかん薬のルーチン使用を正当化するエビデンスは不十分であり、抗てんかん薬とプラセボとを比較する二重盲検ランダム化比較試験が、この重要な疑問を明らかにするために役立つものと思われます。

(監訳 三浦 智史)

翻訳公開日:2014年 7月 23日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。